

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	多摩区第1グループ(枳形・長尾)	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	多摩区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 枳形こども文化センター ①年間延べ利用者数 21,071人 ②年間延べ利用団体数 358団体</p> <p>2 東生田小学校わくわくプラザ ①登録者数 282人 ②年間延べ利用者数 13,034人</p> <p>1 長尾こども文化センター ①年間延べ利用者数 23,207人 ②年間延べ利用団体数 402団体</p> <p>2 稲田小学校わくわくプラザ ①登録者数 360人 ②年間延べ利用者数 23,864人</p> <p>3 長尾小学校わくわくプラザ ①登録者数 131人 ②年間延べ利用者数 7,781人</p>
収支実績	<p style="text-align: right;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 96,237,791</p> <p>2 支出 人件費 81,296,624 事務費 9,435,146 事業費 5,257,389 その他経費 0 (合計) 95,989,159</p> <p>3 差引 248,632</p>
サービス向上の取組	豊かな人間性・社会性を育むために、利用者が安全・安心かつ楽しく過ごせる場所を確保し、行事の企画に利用者のアンケート結果を反映させる等利用者の目線に立ったサービス向上を図っている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 第1グループの合同行事は「ドッジボール★チャンピオンシップ」「アストロテラスde星空ウォッチ」等を開催し子ども同士の交流を深めた。枳形こども文化センターでは「わくわくサマーフェスティバル」を子ども運営協議会と共催で開催した結果、行事参加者が40%増加したが、一部のこ文で利用者の減少がみられた。また「ぼうさいマップコンクール」の全国大会に応募し、みごと入選した。長尾こども文化センターの「あつまれー1・2・3♪」では、乳幼児親子の居場所づくりに取り組んだ。稲田・長尾小わくわくプラザでは行事や保護者へのアンケートで利用者ニーズを把握しただけ事業に反映するよう工夫した他、生田緑地等地域特性を活かした取組を実施した。これらから、概ね事業計画に基づ</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続  効率的・効果的な 支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
<p>(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に処理されている。また、消耗品や備品購入などを精査し、最小限に抑えるなど、経費削減に取り組んでいる。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
(評価の理由) 利用者の目線に立ってサービスの向上を図るため、こども文化センターでは定期的な「こども会議」の開催や、インターネットによる情報発信を図った。多摩区独自にQRコード入りのリーフレット製作し利用者増に取組んだ。わくわくプラザでは年3回の「保護者懇談会」の開催や、こどもの送迎時に保護者に積極的に声かけを行い信頼関係の構築に努め、情報提供や行事の参加要請等を依頼した。行事の実施においては、幅広い年齢層のボランティアの協力を得て行うことができた。また、運営協議会について、運営へ積極的に関わるよう促した結果、地域と一体となった行事を実施することができた。事業実施後、アンケートを行い次回開催に反映する等、利用者ニーズの把握に努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) こども文化センターでは、職員2名で対応したほか、特別な配慮を要する利用者や緊急時等に対して柔軟な対応を確保することができた。わくわくプラザでは、職員4名で対応し、利用児童数が20名増加ごとにスタッフ1名で対応した。職員のスキルアップを図るため外部機関等と連携した研修を実施し、児童厚生一級及び二級の資格取得に繋げた。個人情報等の取扱ではマニュアルを整備し職員に周知する等の取組みを行なった。また、多摩区役所と連携して「地域コーディネイト研修」を実施し、地域課題や効果的な人材育成の方法等について理解を					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか					
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
(評価の理由) 清潔感あふれる施設を目指し、施設の維持・管理に努めた。衛生管理については川崎市の指導等に基づき、消毒等所要の措置を講じている。枳形こ文が利用者で作成した「ぼうさいマップ」について、全国大会で入選したことは利用者の安全確保の視点からも特筆すべき取組である。第1グループ全職員を対象に研修を実施し、多摩区役所衛生課職員を講師に迎え衛生管理の意識向上と、嘔吐物の処理方法を学習した。防災体制については「防災時対応マニュアル」に基づいた緊急時の対応体制等の構築を図っている。					

#### 4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理者(公益財団法人かわさき市民活動センター)のスケールメリットを活かした人員配置、経費削減、また、公益財団法人としての収支相償の会計原則の厳守による剰余金での環境整備など、運営面においては安定的な執行がなされている。

また、各館が培ってきた地域住民や関係機関との連携も非常に良好で、今後も地域一体となった運営が期待できる。

さらに、利用者の安全や災害時の対応に配慮した備えを常に準備しており、適正な業務を遂行している。

第1グループでは、地域ボランティアの活躍の場面が多くあり、また、こども文化センターでは公園のゴミ拾いや草むしりなど地域の中の施設として信頼を得るよう努めており、良い連携が図られている。中学生の利用拡大を大幅に図るなど、事業や広報にも工夫が見られる。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

わくわくプラザにおいては、利用人員の増加など環境が厳しい施設もあるため、安全等に十分配慮した運営を心がけること。

また、こども文化センター及びわくわくプラザとも利用者のニーズ等に対応した、安全・安心でかつ楽しさや信頼感あふれる運営を図るよう要請する。

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	多摩区第2グループ(錦ヶ丘・三田)	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	多摩区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 錦ヶ丘こども文化センター ①年間延べ利用者数 19,754人 ②年間延べ利用団体数 368団体</p> <p>2 南生田小学校わくわくプラザ ①登録者数 480人 ②年間延べ利用者数 21,864人</p> <p>3 生田小学校わくわくプラザ ①登録者数 229人 ②年間延べ利用者数 12,619人</p> <p>1 三田こども文化センター ①年間延べ利用者数 47,207人 ②年間延べ利用団体数 465団体</p> <p>2 三田小学校わくわくプラザ ①登録者数 333人 ②年間延べ利用者数 16,356人</p>
収支実績	<p style="text-align: right;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 96,904,351</p> <p>2 支出 人件費 77,259,878 事務費 9,456,201 事業費 4,384,983 その他経費 0 合計 91,101,062</p> <p>3 差引 5,803,289</p>
サービス向上の取組	豊かな人間性・社会性を育むために、利用者が安全・安心かつ楽しく過ごせる場所を確保し、行事の企画にアンケート結果を反映させる等利用者の目線に立ったサービス向上を図っている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 第2グループの合同行事は「ホテルの国deナイトハイク」等を開催し、子どもたちが肩を組む等両こども文化センターでは三重大行事「夏祭り」「こ文deハロウィーン」「もちつき大会」を開催し、地域と運営協議会が協働しながら取組んだ。三田こども文化センターでは明治大学や日本映画大学等近隣の大学と連携して「地域安全マップづくり」「平和研究所見学(明大内)」「星空のミタッチタ(上映会)」を開催し、大学や自治会等地域と一体化した行事に取組み利用者増に結びついた。南生田小、生田小及び三田小わくわくプラザでは「太鼓チーム」「BUNBUNステージ」の発表等子どもたちが達成感を味わえるよう工夫しながら取組んだ。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	4	4
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
<p>(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に処理されている。また、消耗品や備品購入などを精査し、最小限に抑えるなど、経費削減に取り組み黒字化を達成した。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
(評価の理由) 利用者の目線に立ってサービスの向上を図るため、子ども文化センターでは定期的な「子ども会議」の開催や、インターネットによる情報発信を図った。多摩区独自にQRコード入りのリーフレット製作し利用者増に取組んだ。わくわくプラザでは年3回の「保護者懇談会」の開催や、子どもの送迎時に保護者に積極的に声かけを行い信頼関係の構築に努め、情報提供や行事の参加要請等をお願いした。行事の実施においては、幅広い年齢層のボランティアの協力を得て行うことができた。また、運営協議会で運営への積極的な関わりを促進し、地域と一体となった行事を実施することができた。事業実施後、アンケートを行い次回開催に反映する等、利用者ニーズの把握に努めた。これらの事実から、概ねサービス向上及び業務改善は図られていると評価した。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) 子ども文化センターでは、職員2名で対応したほか、特別な配慮を要する利用者や緊急時等に対して柔軟な対応を確保することができた。わくわくプラザでは、職員4名で対応し、利用児童数が20名増加ごとにスタッフ1名で対応した。職員のスキルアップを図るため外部機関等と連携した研修を実施し、児童厚生一級及び二級の資格取得に繋げた。個人情報等の取扱ではマニュアルを整備し職員に周知する等の取組みを行なった。また、多摩区役所と連携して「地域コーディネイト研修」を実施し、地域課題や効果的な人材育成の方法等について理解を					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか					
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
(評価の理由) 施設の構造や立地条件に応じた安全対策を講じた他、毎日の開館前の点検や必要な施設維持に努めている。衛生管理については川崎市の指導等に基づき、消毒等所要の措置を講じている。また、設置したAEDが適切に使用できるよう研修を実施し、全職員が普通救命講習を受講した。防災体制についてはマニュアルに基づく緊急時の対応体制等の構築を図っている。					

#### 4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理者(公益財団法人かわさき市民活動センター)のスケールメリットを活かした人員配置、経費削減、また、公益財団法人としての収支相償の会計原則の厳守による剰余金での環境整備など、運営面においては安定的な執行がなされている。

また、各館が培ってきた地域住民や関係機関との連携も非常に良好で、今後も地域一体となった運営が期待できる。

さらに、利用者の安全や災害時の対応に配慮した備えを常に準備しており、適正な業務を遂行している。

第2グループでは、近隣の大学、自治会、PTA等と連携した取組みが地域の中の施設として、良い連携が図られている。また、事業の企画から実施に至るまで、小学生から大学生及び高齢者まで幅広い年齢層の協力を得る体制が構築されている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

わくわくプラザにおいては、利用人員の増加など環境が厳しい施設もあるため、安全等に十分配慮した運営を心がけること。

また、子ども文化センター及びわくわくプラザとも利用者のニーズ等に対応した、安全・安心でかつ楽しさや信頼感あふれる運営を図るよう要請する。

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	多摩区第3グループ(菅・中野島・南菅)	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	子ども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	多摩区子ども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 菅子ども文化センター ①年間延べ利用者数 24,338人 ②年間延べ利用団体数 184団体</p> <p>2 菅小学校わくわくプラザ ①登録者数 341人 ②年間延べ利用者数 16,171人</p> <p>3 東菅小学校わくわくプラザ ①登録者数 246人 ②年間延べ利用者数 16,937人</p> <p>1 中野島子ども文化センター ①年間延べ利用者数 38,696人 ②年間延べ利用団体数 406団体</p> <p>2 中野島小学校わくわくプラザ ①登録者数 325人 ②年間延べ利用者数 18,860人</p> <p>3 下布田小学校わくわくプラザ ①登録者数 172人 ②年間延べ利用者数 11,298人</p> <p>1 南菅子ども文化センター ①年間延べ利用者数 27,617人 ②年間延べ利用団体数 350団体</p> <p>2 南菅小学校わくわくプラザ ①登録者数 160人 ②年間延べ利用者数 8,557人</p> <p>3 西菅小学校わくわくプラザ ①登録者数 153人 ②年間延べ利用者数 10,393人</p>
収支実績	<p>単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 157,470,906</p> <p>2 支出 人件費 137,841,771 事務費 11,918,878 事業費 8,072,568 その他経費 0 合計 157,833,217</p> <p>3 差引 -362,311</p>
サービス向上の取組	豊かな人間性・社会性を育むために、利用者が安全・安心かつ楽しく過ごせる場所を確保し、行事の企画にアンケート結果を反映させる等利用者の目線に立ったサービス向上を図っている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) 第3グループの合同行事は「チャレンジ2014」等を開催し、仲間作りの場を創出した。菅子ども文化センターでは、地域の寺の協力を得て「座禅会」を開催し、体験を通して自主性や協調性等を養うことができた。菅及び中野島子ども文化センターでは、多摩区役所子ども支援室や東中野島保育園と共催で地域子育て支援事業である「ママとあそぼうパパもね」を開催した。南菅子ども文化センターでは、乳幼児を対象とした「きらきらKIDSまなみっこ」の開催し、乳幼児親子と中学生の交流を図り、利用者が前年より18%増の効果があった。菅小わくわくプラザの新たな取組である「JAL整備工場見学」は多数の申込があった。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・ 会計手続  効率的・効果的な 支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか			
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に処理されている。また、消耗品や備品購入などを精査し、最小限に抑えるなど、経費削減に取り組んでいる。					



サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	子ども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
(評価の理由) 利用者の目線に立ってサービスの向上を図るため、子ども文化センターでは定期的な「子ども会議」の開催や、インターネットによる情報発信を図った。多摩区独自にQRコード入りのリーフレット製作し利用者増に取組んだ。わくわくプラザでは年3回の「保護者懇談会」の開催や、子どもの送迎時に保護者に積極的に声かけを行い信頼関係の構築に努め、情報提供や行事の参加要請等をお願いした。行事の実施においては、幅広い年齢層のボランティアの協力を得て行うことができた。また、運営協議会について、運営へ積極的に関わるよう促した結果、地域と一体となった行事を実施することができた。事業実施後、アンケートを行い次回開催に反映する等、利用者ニーズの把握に努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		子ども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) 子ども文化センターでは、職員2名で対応したほか、特別な配慮を要する利用者や緊急時等に対して柔軟な対応を確保することができた。わくわくプラザでは、職員4名で対応し、利用児童数が20名増加ごとにスタッフ1名で対応した。職員のスキルアップを図るため外部機関等と連携した研修を実施し、児童厚生一級及び二級の資格取得に繋げた。個人情報等の取扱ではマニュアルを整備し職員に周知する等の取組みを行なった。また、多摩区役所と連携して「地域コーディネイト研修」を実施し、地域課題や効果的な人材育成の方法等について理解を					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか					
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
(評価の理由) 小学校校外委員と連携して「子ども110番」の取組みや「地域安全マップ」の作成に協力した。マニュアルに基づき施設の開館前点検を行う等、利用者が清潔感を感じる施設を目指して維持・管理に努めている。衛生管理についてはマニュアルや川崎市の指導に基づき、消毒等所要の措置を講じている。防災体制については、マニュアルに基づいた緊急時の対応強化を図っている。					

#### 4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理者(公益財団法人かわさき市民活動センター)のスケールメリットを活かした人員配置、経費削減、また、公益財団法人としての収支相償の会計原則の厳守による剰余金での環境整備など、運営面においては安定的な執行がなされている。

また、各館が培ってきた地域住民や関係機関との連携も非常に良好で、今後も地域一体となった運営が期待できる。

さらに、利用者の安全や災害時の対応に配慮した備えを常に準備しており、適正な業務を遂行している。

第3グループでは、野外・スポーツ・文化的活動で健康増進・仲間の団結意識を強化や、乳幼児親子から高齢者まで地域の人々が子ども文化センターに集う機会を設けるなど、地域の中の施設として信頼を得るよう努めている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

わくわくプラザにおいては、利用人員の増加など環境が厳しい施設もあるため、安全等に十分配慮した運営を心がけること。

また、子ども文化センター及びわくわくプラザとも利用者のニーズ等に対応した、安全・安心でかつ楽しさや信頼感あふれる運営を図るよう要請する。



